

取扱いの注意点

無線機やアンテナを設置する前に以下の点に注意して下さい。

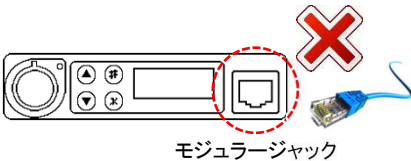
1. 電波環境の確認

ノイズや干渉波を受けると正常な通信を行えません。頻りに通信エラーが発生します。
特に電源装置付近やインバーター内蔵の電子機器付近では電磁ノイズを受けやすくなります。



■スイッチON状態(動作しない状態)で常時Sメーターが表示されるか確認しましょう。	
表示する	何らかのノイズか干渉を受けています。 チャンネルを変更して消えるか確認して下さい。 消えない時は、発信源を特定して対処するか、影響が無い場所に無線機を移動して下さい。時々チカチカと表示する時は他局(交信)を受信しています。 また、緑ランプ点灯は微弱なノイズか干渉を受けています。
表示しない	正常です。
■アンテナを接続した時と接続しない時、Sメーターが表示されるか確認しましょう。	
接続状態	アンテナ周辺(外側の環境)から影響を受けている可能性があります。 同軸ケーブルを他の電源ケーブルと一緒に束ねるとノイズが乗りやすいです。
非接続状態	無線機周辺付近から影響を受けています。(電源や通信ケーブル)

2. モジュージャックの注意点



本機とIF701インターフェースケーブルを接続するモジュージャックは、LANケーブルのモジュージャックと同規格です。ここに動作しているLANケーブルを接続するとLANからの低圧大電流が原因で無線機が故障しますので絶対に差し込まないで下さい。

3. アンテナコネクタについて



N-Jコネクタ
無線機側

N-Pコネクタ
同軸ケーブル側

M-Pコネクタ
芯が太く合わない

無線機側のアンテナコネクタは「N-J」タイプです。
同軸ケーブル(アンテナ)側は「N-P」コネクタとなります。
接続の注意点として、特にノンラジアルタイプ(車載タイプ)のコネクタは「M-P」が多く、このコネクタを直接無線機に接続しますとコネクタ部が破損してしまい全く飛ばなくなります。
必ず、「N-P」変換コネクタを使用して下さい。

4. 使用温度

-20°C~+60°C以外の環境では使用しないで下さい。故障の原因になります。
特にRTK-GPS補正データ基準局で、収納ボックスに無線機を入れて運用する場合、ボックス自体を外気を取込んで冷却する換気式にして下さい。また、稼働しない時(夜間等)は無線機の電源をOFFにしてお休みタイムを実行して下さい。

5. 「逆接」や「過電流」に注意

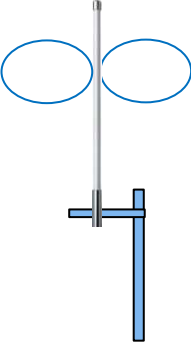
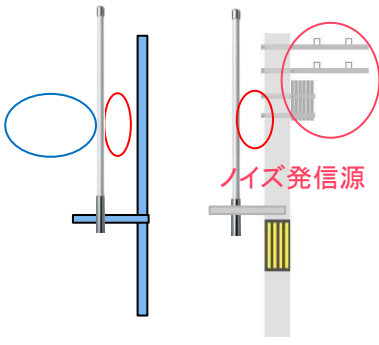
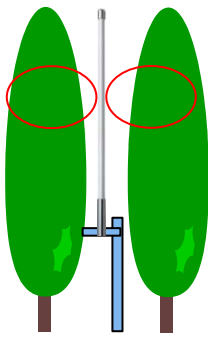
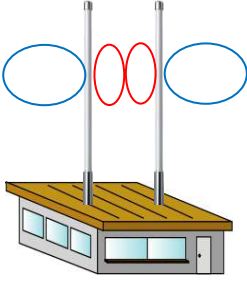
本機には、付属品の電源ケーブル(ヒューズ付き)が同梱されています。
必ず、本体と電源供給側の間には付属の電源ケーブルを接続して下さい。
特に重機などの設置で電源ケーブルを接続せずに過電圧が生じた場合、無線機が破損及び故障の原因となります。



6. アンテナ設置方法

アンテナ設置の基本は、周囲に障害物が無いのが条件です。

下記の悪い例で設置しますと、上手く電波を伝搬することが出来ず、パフォーマンスの低下に繋がり、無線機の故障原因にもなります。また、通信エラーも頻繁に発生します。

良い例	悪い例		
最適な設置	障害物・ノイズ系	減衰系	干渉系
			
	電柱やアンテナマストと並行して取付ける	樹木などの中に設置	他のアンテナの近くに並行に取付ける
	<ul style="list-style-type: none"> ・全く飛ばず、受信感度も低い。 ・通信エラーも頻繁に発生する。 ・無線機の故障原因になる。 	全く飛ばず、受信感度も低い	通信エラーが頻繁に発生。

7. 通信障害

良くある通信障害例をご紹介します。

運用	障害内容	原因並びに対策
テレメータ 無指向性・山間部で使用	C9の強い感度で受信しているが、通信エラーが発生する。	マルチパスの影響です。 特に利得の高いアンテナ使用や近距離での通信で発生します。子局側は八木アンテナに変更するか、近距離であれば出力を落として下さい。
テレメータ U7000UJC181登録局を使用	<ul style="list-style-type: none"> ・ある日突然通信不良が発生。 ・夜間や特定の時間帯に通信不良が発生。 	登録局は誰とでも交信出来るのが特長です。 このケースでは同チャンネルで他の方がトランシーバーを使用しているの混信が原因です。 いちどチャンネルを変更して様子を見て下さい。 また、デフォルトの1チャンネルのままで使用されているケースもございます。1チャンネルは使用頻度が高いので他のチャンネルに変更して下さい。